

お祭り騒ぎの後で



カタール国寄進イスラーム事項省 フォトグラファー 福嶋 タケシ

2022年も残すところあと1日と迫った12月30日のこと。

その日はちょうど週末の金曜日だったこともあり、妻を誘って久しぶりに Lusail Boulevard へ。

サッカーのワールドカップ2022カタール大会が閉幕してまだ一ヶ月も経っていない頃の話ですが、当時もうすでに遠い昔の記憶のようになりつつありました。

新しい副都心として開発の始まったルセイル地区は、20年代半ばまでに全ての官庁が移転すると言われています。そのルセイル地区の中心に位置するLusail Boulevard。ワールドカップ期間中は歩行者天国として開放されていたこの大通りも、年明け早々には本来のプロジェクト進行へ戻り、片道三車線の大通りにも車が入るようになると予告がなされていました。

4年に一度の祭典に染まっていた全てが日常へ戻ってしまう、その前にあのお祭り騒ぎの余韻を、そんな感じでいつもの民族衣装ではなくスポーツウェアというカジュアルなスタイルに着替えて外出。カジュアルといえども流石に半袖では役立たず。そのくらいには寒さがやってきていたドーハ。1年ぶりに冬物をクローゼットから取り出します。日が暮れた直後でも気温は16度前後あるとはいえ、海沿いに出て風が吹きつければかなり肌寒い。

ドーハ市内の地下を3つの路線で結ぶドーハメトロはワールドカップ開催を機に建設が進んだインフラの一つですが、スタジアムを含めイベント会場へは駅からかなり歩くパターンが多く、Lusail Boulevardもその一つでした。通りにはトラム（路面電車）が走る予定になっていて、軌道や駅舎などは既に準備が整っているように見えますが、運行はまだ少し先のことらしい。そんなわけで普段通りに車で向かうことに。大通り裏の駐車スペースに停めるつもりでいたのですが、イベントの後片付けがまだ終わらないのか、その手前で通行止めになっています。仕方なくUターンして路肩の駐車スペースへ。

大会期間中は混雑を緩和するために、このエリアを含め各スタジアムやファンゾーン周辺は車両の通行が制限されていて、メトロやバスなどの公共交通機関を利用するか、自家用車で訪れる場合には徒歩15分ほどの結構離れた臨時駐車場に停める必要がありました。

それに比べたら、今日の徒歩移動など全く問題ではありません。

車を降り、背の高い無機質なデザインの建造物が4本立ち並ぶ印象的な Lusail Towers を目指して歩きます。5分ほど経ってタワーの足元まで来たところで陽気な音楽を流す店を発見。この先には私たちが目指す海の見えるスポットがありますが、そこへ辿り着く前に少し温まりたくて、熱い飲み物はないか聞いてみます。

音楽に合わせたかのようにこれまた陽気な感じの店員が「カプチーノ，ラテ，ホットチョコとかあるよ」

妻はラテ，自分はカプチーノをオーダー。時間帯的にデカフェにしたかったのですが、あいにく置いてないとの返事。まあいいです，明日は週末だし少しくらいカフェインが入って眠れなくなっても大丈夫でしょう。

ガラガラと豆を引く音やエスプレッソマシンから上がるスチームの音を聞きながら出来上がるのを待ちます。ふと見るとカウンターの前に小さな水色や黄色のポストイットが。そういえば先ほど飲み物を買った子供が何やら書き込んで貼っているようでした。「これ，写真に撮ってもいい？」と聞くと，店の兄ちゃんはさらにテンション上げながら「もちろんさ！ここにお客さんから感想や意見を書いてもらってるんだ！みんなの言葉が僕たちの店を作り上げるんだよ！」

ちょっとノリについていけない自分に挫ける前にサッとカメラを構えて撮影モード。どうせだから，飲み物が出来上がるまでに自分も何か書いて貼ってみよう。

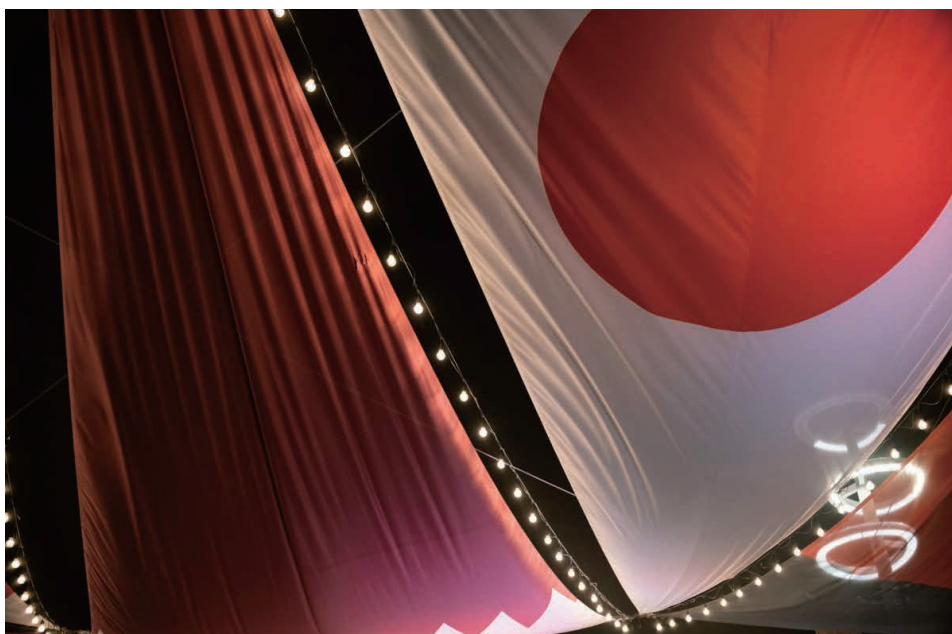
見てみるとクウェートやUAE，あるいはアジア各国などから来たお客のメッセージが並んでいます。それぞれに書き綴られた言葉から，つい数週間前までこの大通りでW杯の熱気を味わっていたであろう人たちの姿が眼に浮かんできます。



各国からやってきた観戦客たちの言葉が並んでいる



大会マスコットのライブ



残念ながら日本 VS カタールは実現しませんでした

2022年が明けてすぐの頃には、この小さな半島の国でワールドカップを開催することに疑問を呈する声はまだ多数上がっていました。確かに在住者の目線で見ても、この国の人口を超える300万とも400万とも言われる観戦客の受け入れは正直なところ不安でした。政府は混雑緩和対策として政府セクターの80%リモートワークを指示。残り20%の職員も午前7時から11時までの4時間勤務としたのですが、プライベートセクターは通常通りの営業時間ということもあり、あまり効果は期待できそうにない、そう考える人が多かったように思います。

加えて市内の各所で全面通行止めなども予定され、メトロの輸送能力と合わせても、日常の移動は相当困難になるだろうと誰もが思っていました。

ところがいざ蓋を開けてみると、それらはほぼ杞憂に終わったと言っていいでしょう。出勤ラッシュ時に若干の渋滞は見られたものの、試合そのものへの影響はありませんでした。

実はそういった混雑が嫌で試合のチケットも買っていなかったのですが、幸運にも何故か2試合も観戦する機会を頂きました。1試合目は地元カタールとセネガルとの試合。会場となったAl Thumamahスタジアムは最寄りのメトロ駅が遠いため、駅からスタジアムまで無料のシャトルバスが運行されました。メトロもバスも混雑を避けるため国外から観戦に来たファンを優先し、国内に住む観戦者は自家用車で向かうように運営からSNSなどを通じて指導があったため、我が家もそれに従うことに。駐車場から会場まではどのスタジアムも15分ほど歩きますが、誘導も含めて非常に的確でガラガラと行列で立ちっぱなしということもありませんでした。

試合は残念ながらカタールが負けてしまいましたが、カタール代表の初得点が観れたのでよしとしましょう。試合時間が午後の礼拝と被っていたことで、試合終了後の礼拝室は



人生初の W 杯観戦はカタール VS セネガル

満員となりました。この礼拝室が完備されているのもカタールならではのようです。

もう1試合は日本代表とコスタリカ。こちらは試合開始直前に観戦の機会を頂いたため、駐車場の位置を把握しておらず、迷う可能性を考慮しメトロで向かいます。会場はAhmed bin Aliスタジアム。こちらはメトロ駅がすぐ側にあるため、駅を降りたらそのまま目の前のスタジアムへ。このように、いずれも予想以上にスムーズに移動。まさに拍子抜け。

特にメトロを利用した2試合目の帰路では、試合直後のスタジアムから大勢の観戦客が一気に押し寄せるため、ホームに降りるにも相当待たされることを覚悟していましたが、



ひよんなことから観戦が実現した日本戦 相手はコスタリカ



試合は完敗 重い足取りでメトロ駅へ向かいます

びっくりするほど順調に一度も立ち止まることなくプラットホームまで辿り着き、ちょうど到着した車両に乗車。車内も身動きが取れないような混雑ではなく、各自最寄駅ですんなりと下車していました。

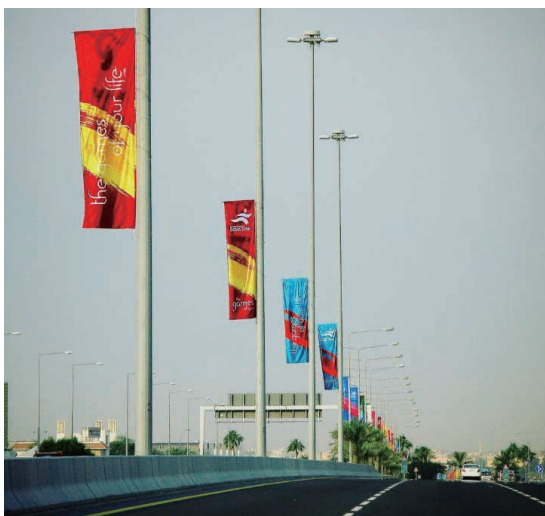
やればできるじゃないか。それが最初に思ったこと。無論、これまで行われたイベントの例に漏れず実際に運営を切り盛りしたのは経験豊富な外国人たちでしたが、彼らだけが勝手に動いていたわけでもないでしょう。指示や判断をしているのはやはりカタール人たち。少なくとも頭と体はうまく調和して全てをこなしているように見えました。

年も明けて2023年。

未だワールドカップの余韻が冷めやらぬ…と言いたいところですが、市内各所の規制などに使われたバリケードはあっという間に撤去され、歩行者天国となっていたコルネーシュ（海岸通）は終了から1週間ほどでもう以前の状態に戻ってしまいました。メディアは去年の総括としてのワールドカップの話題が続くものの、政府も国民もそして我々在住外国人も、気持ちはすでに2023年。

今年は環境や持続可能性をテーマとした Expo 2023 Doha, 翌年の2024年初めにはサッカーのアジア杯, 2025年の卓球世界選手権, 2027年はバスケットボールのワールドカップ, そして2030年にはアジア大会が24年ぶり2度目の開催と大きなイベントが目白押しです。

実は前回の2006年のアジア大会ではバレーボールの審判補佐として運営に参加していました。次の2030年はちょうど自分が定年を迎える年。さすがに運営に関わることはなさそうですが、24年ぶりに今度は観客の一人として迎えられることを楽しみにしています。



2006年アジア大会



最終日にスタッフ全員で記念撮影

写真はすべて筆者撮影